

アメリカにおける大学スポーツの現状
—NCAA、コネチカット大学、南ニューハンプシャー大学に
着目して—

松浪 稔*¹・伊藤栄治*¹・大津克哉*¹・吉原さちえ*¹

The Present Situation of College Sports Management in the United States:
The Role of the National Collegiate Athletic Association (NCAA) at American
Universities

by

Minoru Matsunami, Eiji Ito, Katsuya Otsu and Sachie Yoshihara

Abstract

This paper will analyze the role of the National Collegiate Athletic Association (NCAA) at two American universities in order to gain insights into how to improve college sports in Japan. It will do this by looking at the NCAA's impact on the athletic programs and facilities at the University of Connecticut and Southern New Hampshire University. By discussing the role of the NCAA and the current status of college sports in the United States, this paper will provide suggestions on which NCAA policies should be adopted in Japan in order to improve upon college sports in Japan.

I. はじめに

本稿では、アメリカの大学スポーツの現状について、コネチカット大学(UConn)、南ニューハン

プシャー大学(SNHU)の事例についてその概要を明らかにすることを目的とする。

本研究では、NCAA（全米大学体育協会）およ

* 1 東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科

びアメリカの大学スポーツについての先行研究、NCAA、コネチカット大学、南ニューハンプシャー大学のWEBサイトの関連資料を整理すること、およびコネチカット大学、南ニューハンプシャー大学で実施したフィールドワーク¹とインタビューで得た知見と資料などに基づいて考察することで、研究目的を達成したい。

まず、アメリカの大学スポーツを総括するNCAAの果たしている機能の概略を提示することで、アメリカ大学スポーツの在り方について概観する。NCAAに関する先行研究、NCAAのWEBサイトがその主な資料である。

つぎにNCAAのルールに則って運営されているコネチカット大学、南ニューハンプシャー大学の現状をあきらかにする。コネチカット大学は北米でも有数の州立の大規模総合大学で、スポーツ・レジャーマネジメント学科の海外実習でも関係が深い大学である。東海大学の学生、卒業生の留学、進学の実績もある。また、南ニューハンプシャー大学は中規模の私立総合大学で、スポーツマネジメントのコースもあり、日本からの留学生も学んでいる大学である。コネチカット大学、南ニューハンプシャー大学のWEBサイト上の情報及び、フィールドワークによる調査などがその主な資料となる。

本研究で、アメリカの大学スポーツの状況をあきらかにすることで、日米の大学スポーツの環境の違い、考え方の違いが浮き彫りにされるだろう。

II. NCAA（全米大学体育協会）

1. NCAAの設立

NCAAの設立には、アメリカンフットボールの大学対抗戦が大きくかかわっている。

最初のアメリカンフットボールの大学対抗戦は1869年プリンストン大学とラトガーズ大学の間で行われた。この試合はサッカーに近いルールだった。その後、ラグビーのルールも参考に、アメリカ独自のフットボール²が開発され、大学スポーツとして広まっていった。当初は選手資格も曖昧で、学生でない選手、聴講生、大学院生などが入り混じっていた。大学スポーツが人気を集めるようになると、フットボールを中心とした大学ス

ポーツは、新聞で報道されることで、大学の宣伝材料として使われた。人気を集めるために有力選手の引き抜きなども横行したという。しかし、当時のフットボールは大変危険な肉弾戦で多数の死傷者が出た。「1890年から1905年までの間で330人が高校、大学、リクリエーションすべてを含めたアメフトによって死亡していた。1905年だけで3人が死亡、88人が重傷、15人が以前のケガがもとで死亡した³」。フットボールは男らしさの象徴でもあったが、その暴力性、事故の多さは社会問題となった。

そして1905年10月、大統領セオドア・ルーズベルトはホワイトハウスにハーバード大、エール大、プリンストン大学の関係者を召集した。フットボール廃止論が叫ばれるなか、廃止ではなくルールを改正することでフットボールを健全化し、安全でクリーンなものにできると期待したのである。大統領の働きかけをうけ、この三大学が中心となって1905年にアメリカンフットボール規則委員会（American Football Rules Committee, FRC）が設立された。

一方、同じ1905年にフットボールの試合中に死亡者が出たことから、ニューヨーク大学のマクラッケン学長はフットボールの改革の必要性を感じ、13大学を集めた会議を開催し、ルールの改定を議論するようになった。1906年3月31日には39の大学が参加しIntercollegiate Athletic Association of the United States (IAAUS)が設立された。当初FRCに参加していた大学はIAAUSに不参加だった。そして1910年にIAAUSはNational Collegiate Athletic Association (NCAA)と改称した。さらに1911年には、FRCとの統一が果たされた。こうして大学横断的かつ競技横断的統括組織となるNCAAが設立された。設立当初、大学スポーツの安全確保や選手資格を明確化するルールを制定することがその主な目的だった。

NCAAは1921年に陸上競技の大学選手権を開催した。これを皮切りに、様々なスポーツのルール委員会を設置、選手権大会を主催することになった。

1920年代以降、アメリカンフットボール、バス

ケットボールの人気の沸騰した。特定の大学に有力選手が集中することを避けるために、アスリートの勝手な移籍や転校を制限するルールや、スカウティング（有力高校生のリクルーティング）やアスリートの学力基準にルールの導入が求められるようになった。

NCAA は加盟大学の裁量権を重視していたので、大学スポーツの放送についても 1940 年代まで各大学に任せていた。しかし 1950 年代に入り、NCAA は収入源としてテレビ中継の放映権料に注目するようになった。NCAA が窓口になり、各チームが放映される回数に制限をかけて、テレビと契約したのである。放映回数に制限をかけたのは「放映権料が有力校に集中すると、優れた監督を雇ったり、トレーニング施設・寮を豪華にすることでますます有力選手が集まり、スタジアムも増築できればますます多くの観客が集まるので、大学間の戦力格差が大きくなる⁴⁾」からである。また、有力校の試合ばかりがテレビで放映されるとその他の中小の大学の試合の観客が減り、入場料収入も減ってしまうため、それらを保護するためにも放送回数を制限したのである。アメリカのプロスポーツに同じく、リーグ全体の繁栄のために戦力を均衡させるという考え方で NCAA は発展してきた。

2019 年 2 月現在、NCAA には 1117 大学が加盟しており、毎年約 50 万人の学生アスリート (Student Athlete) が 1 万 9750 のチームに所属し、三つのディヴィジョン (I～Ⅲ) で、24 のスポーツ (競技) において、90 のチャンピオンシップを競っている⁵⁾。

NCAA の三つの理念は「Academics (学業との両立)」「Well-being (安全と健康)」「Fairness (公正)」である。

「Academics (学業との両立)」のために、後で触れるアカデミックルールが設けられているし、シーズン中は 1 日 4 時間、週 20 時間、週一日の休日など練習時間を制限するルールがある。また、入学前、入学後の成績により選手資格を制限している。

「Well-being (安全と健康)」のためには、健康保険、負傷時などの補償制度などが含まれる。ま

た、ディヴィジョン I とディヴィジョン II の学生アスリート (Student Athlete) には、朝昼晩の三食が保証されている。

「Fairness (公正)」を担保するために、男女平等、LGBT への配慮、奨学生の数の制限などが行われている。「Academics」「Well-being」も「Fairness」の一環だと考えられている。

2. NCAA スポーツとタイトル区

NCAA はすべての競技スポーツを網羅する団体ではない。NCAA は 24 のスポーツの競技大会を運営しており、表 1 に示したこれらの競技が NCAA スポーツである。

表 1 NCAA スポーツ

野球	バスケットボール
ボウリング	クロスカントリー
フェンシング	フィールドホッケー
フットボール	ゴルフ
体操競技	アイスホッケー
ラクロス	射撃 (ライフル)
ボート	スキー
サッカー	ソフトボール
水泳および飛込競技	テニス
陸上競技 (屋内)	陸上競技 (屋外)
バレーボール (屋内)	バレーボール (ビーチ)
水球	レスリング

表 1 に示したほとんどの競技で男女平等が実現している。NCAA において女子の競技大会が開催されていないのは、野球 (代わりにソフトボールが開催されている)、フットボール、レスリングであり⁶⁾、男子の競技大会が開催されていないのは、ボウリング、フィールドホッケー、ボート、ソフトボール (代わりに野球が開催されている)、バレーボール (ビーチ) である。

アメリカにおいてスポーツの男女平等が重視されているのは、それにかかわる法律が 1972 年にできたからである。いわゆるタイトル IX (Title IX of the Education Amendments of 1972) である。これは、アメリカ連邦政府からの補助金を受けて

いる教育機関において、性別による差別を禁止した連邦法である。タイトルIXの主な目的は教育機関における男女の機会均等だったが、特に学校現場のスポーツに適用され（女性スポーツにより多くの予算が割かれるようになり）、結果、全年齢における女性のスポーツへの参加を増やすこととなった。

3. ディビジョンとカンファレンス

日本の大学スポーツでは、競技ごとに所属連盟がある。また地域ごとにも所属連盟がある。所属する大学はその競技の成績によって、地域の1部リーグや2部リーグに所属する。また、1部、2部間の移動（入れ替え戦）も行われる。例えばA大学のバスケットボール部は1部リーグ所属だが、サッカー部は2部リーグ所属ということもある。

しかし、NCAAでは、加盟大学がディビジョンI～IIIの三つのディビジョンに分かれて所属する。これは、大学、大学スポーツの規模、競技成績などによるものである。「ディビジョン1には、少なくとも男女それぞれ7つのチームを保有する、規模の大きな大学が所属している。このうち、アメリカンフットボールチームを持つ大学は、Football Bowl Subdivision（FBS⁷）またはFootball Championship Subdivision（FCS⁸）に分類される。また、学生アスリートへのスポーツ奨学金の提供も行っている。ディビジョン2には、少なくとも男女それぞれ5つのチームを保有する大学が所属している。地元や州内からの学生アスリートが多く、近郊の地域での試合開催が多い。ディビジョン1同様に学生アスリートへのスポーツ奨学金も提供している。ディビジョン3の大学は、学生アスリートへのスポーツ奨学金の提供を行っておらず、より多くの学生にスポーツ参加の機会を提供することに重きを置いている⁹。

各ディビジョンに所属する大学は、ディビジョン内で、大学の所在地や競技成績などに応じて大学間が同意して特定のカンファレンス（競技連盟）に所属し、競技を行う。カンファレンスは大学で所属するものであり、競技ごとにカンファレンスが異なるということは原則的にない¹⁰。

ディビジョンI所属の大学は、ディビジョンI

内のカンファレンスに所属し、同じカンファレンス内で試合を行う。異なったディビジョンに所属する大学間での公式戦は行われぬ。カンファレンスが日本の大学スポーツの東京六大学や首都大学野球リーグ、関東学生アメリカンフットボールリーグのようなリーグ（地域リーグ、競技連盟）に近い。

NCAAでは、ディビジョンIに351大学、ディビジョンIIに308大学、ディビジョンIIIに443大学が所属し¹¹、各ディビジョン内のカンファレンスで試合を行っている。

日本の大学スポーツでは、加盟リーグの移籍、リーグの合併、解散などはあまりないが、NCAAのカンファレンス間の大学の移籍やカンファレンスの合併、解散などは、比較的高い頻度で行われている。

4. アカデミックルール

NCAAには厳格なアカデミックルールがあり、成績不良者は練習や試合に参加できない、ということによく知られている。では、実際このアカデミックルールの具体的な基準はどうなっているのだろうか。

高校生がNCAAに加盟する大学で学生アスリート（Student Athlete）としてスポーツに打ち込みたい場合の基準は以下のとおりである。

まず、ディビジョンIの大学に入学し、1年生からスポーツに参加したい場合、高校を卒業し、以下のすべての条件をクリアしなくてはならない。

①16のコアコースを修了していること。②高校でのGPAが2.3以上なくてはならない。③また、GPAに応じたSATまたはACTのスコアを獲得しなくてはならない。GPAが低ければテストで高いスコアが必要であるし、テストのスコアが低ければ高いGPAが必要である¹²。

しかし、大学一年次にレッドシャツ（選手登録しない練習生）として認められれば、上記のGPA以外の条件をクリアすれば、GPAが2.0以下であっても公式練習に参加でき、スポーツ奨学金の受領資格を得ることができる（一年次は試合に参加できない）。ちなみに、一般的にアメリカの高校の成績で四年制大学に進学するにはGPA2.5は必要

であるとされている。

ディビジョンⅡの場合は上記ディビジョンⅠの基準のうち高校の GPA が 2.2 となる。

学生アスリートには、大学入学後の成績基準がある。ディビジョン毎に成績の基準が違っていたり、各大学が独自に設けた基準もある。

大学での取得単位の基準は、二年終了時に卒業単位の 40%、3 年終了時には 60%、4 年終了時に 80% の単位¹³を取得していなければプレーできない（もちろんこの基準では 4 年間では卒業できない）。

取得単位数だけでなく GPA にも基準がある。GPA の基準は、「具体的には一部リーグ (Div.1) では 1 年目～2 年目に基本 GPA2.0 の 90% (1.8) を超えること、3 年目には 95% (1.9) 4 年目に 100% (2.0) を超えていることが必要となる¹⁴」。「ただ、アメリカの GPA は日本よりも高く平均で 3.0 程度なので、GPA2.0 というのはかなり低い水準である¹⁵」。1 年間のレッドシャツの制度もあり、一般的には 5 年間のスポーツ参加が認められており、上記の 4 年生終了時点で 80% の単位数取得で、5 年間の奨学金を受けることができるシステムである。つまり 4 年間での卒業を前提としていないシステムであるともいえる。

さらに、アカデミックの点においてアマチュアリズムを促進している。大学スポーツにおいては、アスリートである前に学生であることを強調しているのである。以下に NCAA のアマチュアリズムについての理念を引用し、その日本語訳を示す。

Amateurism

The NCAA promotes amateurism to create a level playing field for all student-athletes. The young men and women who compete in college sports are students first, athletes second. If you want to compete in NCAA sports at a Division I school you must be an amateur athlete.

アマチュアリズム

NCAA は、すべての学生アスリートにとって公平な競争の場をつくるためにアマチュアリ

ズムを促進しています。大学スポーツで競争する若い男女は、まず第一に学生です。アスリートであることはその次です。ディビジョンⅠに所属する大学で NCAA スポーツに参加する場合は、アマチュア選手でなければなりません。¹⁶

なお、アメリカの大学で、大学を代表するクラブ (Varsity Team) でスポーツをするのは主に学生アスリートとして入学した学生である。ディビジョンⅠの大学などでは、一般の学生は大学を代表するクラブには入部できないことが多い。NCAA は学生アスリートのアマチュアリズムを強調するが、在学中の学生アスリートには、奨学金が出る場合が多く、そのうえ、学生アスリートの食事、スポーツ用具、遠征費、合宿費など、スポーツにかかる費用はすべて大学負担であり、学生アスリート個人が負担することはない。

よって、学生アスリートは、スポーツをすることによって奨学金や食費ほかの報酬を得ている労働者であると判断されたり、NCAA のアマチュア規定は違法だという判決が下されたりしているのが現状であり¹⁷、アマチュアリズムの理想を堅持したい NCAA と現実の学生アスリートのプロフェッショナル性についてパラドクスが生じている。

5. アメリカの大学はスポーツで儲けているのか

NCAA の収入の柱は、NCAA が主催する試合の放映権や興行収入、それに関連するグッズの売り上げなどである。年間 1,000 億円以上の収入があるといわれている。その収入のほとんどを占めるのが、「マーチマッドネス (March Madness)」といわれる NCAA 全米バスケットボール選手権大会だ。毎年 3 月中旬から約 3 週間かけて行われる、予選を勝ち抜いた 68 大学によるトーナメントである。放映権料だけで 830 億円以上といわれている¹⁸。NCAA の収入は、NCAA 所属の大学への分配金、奨学金、大会支援金、学習プログラムなどに支出される。

なお、アメリカンフットボールの放映権収入や興行収入などは、カンファレンスに集約され、カ

ンファレンスから所属大学に配分される¹⁹。

アメリカのテレビ放映権料がなぜ日本と比べて高額なのか簡単に確認したい。まず、テレビ市場の規模の差がある。日本のテレビ市場は約4兆円前後だが、アメリカは17兆円を超えるという(1ドル120円換算)。その理由の一つは広告宣伝費の規模の違いである。アメリカの広告宣伝費のGDPに占める割合は2.5%であり、日本の1.4%に比べて高い。これはアメリカが日本の25倍の国土を有するからで、ロコミや新聞、看板などでは広告できず、広告宣伝を電波に頼っているためである。また、小売店でも飲食店でもチェーン展開していることも電波媒体(テレビ)に広告宣伝費が使用される要因である。

また、日本ではテレビ視聴料を支払う習慣があまりないが、アメリカではテレビ視聴に金銭負担が伴うという考え方が普及している。国土が広いアメリカでは、難視聴対策もありケーブルテレビが普及してきた。それぞれの地域で事業者がケーブルを敷設し、視聴者がその金銭負担を担うというビジネスモデルである。また、テレビは公共性が高いメディアであるため、ケーブルテレビ事業者は独占禁止法から除外され、一地域一社というかたちで政府から保護されてきた。テレビを見るためにはケーブルテレビに加入するしか手段がないうえ、事業者は他社との競合にも晒されない。そのため、多くのお金がケーブルテレビ事業者に、そしてテレビ局に流れ込むのである。よって、テレビ局は十分な予算で優良コンテンツを制作、獲得し、発信するのだ。アメリカではテレビにお金がまわる仕組みができていのである²⁰。

強大なテレビマネーが大学スポーツでも動いており、NCAAや公式試合を主催する各カンファレンスから分配金収入があり、米国の大学は、大学スポーツで儲かっているという印象があるが、実はそうとはいきれない。

宮田によると、大学スポーツ単独で黒字を計上できる大学はディビジョンIのフットボールチームを持つ大学の一部であり²¹、ほとんどの大学のスポーツは、大学本体からの援助なしには運営できない。つまり多くの大学では、大学スポーツによって収益を上げることはできていないのである。

アメリカンフットボールの強豪校であるディビジョンIのFBSの大学でも、大学スポーツにかかる収入の20%程度が大学等からの補助である。FCSの大学では大学スポーツにかかる収入の70%、フットボールチームを持たないディビジョンIの大学では75%、ディビジョンII(フットボールあり)の大学では85%が大学等からの補助金である。それらの収入は、学生への奨学金、試合料、監督・コーチの給与、試合のための旅費、リクルーティング、施設の維持等に使用される。ディビジョンI、ディビジョンII所属の大学でスポーツに打ち込む学生アスリートは、食事、スポーツ用具など、スポーツにかかる費用はすべて大学もちで、学生個人が負担することはない。

アメリカの大学スポーツ(特にフットボールやバスケットボール)の監督・コーチの給与が高額なことは話題なるが、優秀な監督・コーチは、プロと競合しての奪い合いになるからだといえよう。フットボールとバスケはスポーツでお金を生み出す可能性のあるスポーツだからこそ、給与が高く設定されるのである²²。

大学スポーツで儲けることができる大学は極めて少ないにもかかわらず、アメリカの大学がスポーツに力(お金)を入れる理由の一つは、スポーツが大学の宣伝に有効であると考えているからであろう²³。

Ⅲ. コネチカット大学

1. コネチカット大学の概要

コネチカット大学(University of Connecticut、略称:UConn)は、1881年に創立された、農学、医学、歯学、薬学、工学、法学、教育学、ビジネススクールなど、14の教育研究組織(学部)で構成される、学生数2万6000人余りの大規模総合大学で、全米有数の州立大学の一つである。メインキャンパスの広さは東京ドーム約380個分(約17.8km²)で、農業学校として設立されたことから、広大な農業実習地がキャンパス内にある。2017年度の予算は23億ドル、2017年度の寄付は約4億2,190万ドルである²⁴。

一年間の学費は、コネチカット州出身者は12,848ドル、州外出身者は35,216ドル。学生費

として 2,882 ドル必要である。その他、寮費、食費、保険などの費用がかかる²⁵。

NCAA のディビジョン I で (フットボールは FBS)、アメリカンアスレチックカンファレンスに所属している。大学スポーツチームのニックネームはハスキーズで統一されている。男女のバスケットボール部が全米を何度も制覇していることでも有名である²⁶。野球 (男)、フィールドホッケー (男)、フットボール (男)、ゴルフ (男)、バスケットボール (男女)、クロスカントリー (男女)、アイスホッケー (男女)、サッカー (男女)、水泳・飛び込み (男女)、テニス (男女)、陸上競技 (男女)、ボート (女)、バレーボール (女)、ラクロス (女) のチームが、大学のチームとして活動している。

「学生アスリートは、スポーツでも、学業でも高いレベルが求められている。学生アスリートは、学生のお手本であり、試合でも教室でも同じように努力することが期待されており、学生アスリートがトレーニングや学業を怠れば、退学させるとしている。学生アスリートの活躍が愛校心を育成し、スポーツで卓越することが学問の向上に貢献すると考えているのだ。だから、学生、卒業生、州内外のファンは、ハスキーズのプライドで一つになれるのだ」という²⁷。ここに、コネチカット大学が大学スポーツにも力を入れる理由があるといえるだろう。

2. コネチカット大学のスポーツ施設

1) バートンファミリーフットボールコンプレックスとマーク・R・シェンクマントレーニングセンター

バートンファミリーフットボールコンプレックス (Burton Family Football Complex) は、アメリカンフットボールのクラブハウスであり、2002 年にコネチカット大学に 250 万ドルの寄付を行ったロバート・バートンの名前が冠されている。

マーク・R・シェンクマントレーニングセンター (Mark R. Shenkman Training Center) はバートンファミリーフットボールコンプレックスに隣接した屋内フットボール場やウェイトトレーニ

ング場を含めた練習施設で、マーク・シェンクマンと同窓生からの 250 万ドルの寄付があつて建設されることになった。

1999 年、コネチカット州立大学が NCAA のディビジョン I A (現在の FBS) のフットボールカテゴリーに移行する際に、ほぼすべての大学スポーツの施設を大幅にグレードアップする必要があつた。その際に、キャンパス内にもフットボールが存在することが重要だと考えて作られた施設である (コネチカット大学フットボール部のホームスタジアムは、大学から約 30 キロ離れたプラット&ホイットニー・スタジアム (Pratt&Whitney Stadium (レンチュラーフィールド)) である)。



写真 1 バートンファミリーフットボールコンプレックス

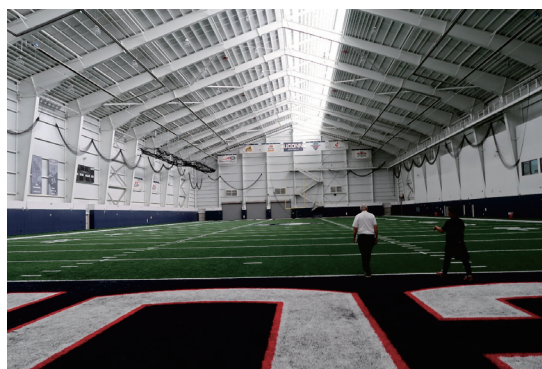


写真 2 マーク・R・シェンクマントレーニングセンター内 屋内フットボール場

総工費が 5,790 万ドルだといわれているバート

ンファミリーフットボールコンプレックスは、2006年に完成した。コーチオフィス、チームミーティングルーム、ビデオ施設、ダイニングホール、学生用アスリートラウンジ、アカデミックルーム（学習室）、ランドリーロッカーなどが設置されており、常時100人以上の部員の活動を支えている。また、隣接したマーク・R・シェンクマントレーニングセンターには、室内100ヤード（ゴール含めて120ヤードの正式な大きさ）の、エアコン完備の人工芝フットボール場、トレーニング施設、更衣室、ミーティングルーム、テーピングルーム、リハビリ用プールとコンディショニング施設、放送設備室などが設置されており、全米でもトップクラスの施設である。

2) ワースファミリーバスケットボールセンター



写真3 ワースファミリーバスケットボールセンター

ワースファミリーバスケットボールセンター（Werth Family UConn Basketball Champions Center）は、男女のバスケットボール部のクラブハウス兼練習場である。2014年に完成した。総工費3,600万ドルの施設である。全額民間寄付で建設された。入口正面から右翼が男子、左翼が女子の施設で、それぞれ別々に練習場、ロッカールーム、コーチオフィス、ミーティングルーム、ビデオルームなどがある。中央には男女共用のスタディエリアや簡易食堂のスペースがある。

男女とも、バスケットボール選手は各学年5名

程度、最大20名程度である。男女合計約40名の学生アスリートとスタッフだけがこの広大な施設を利用している。一般学生等は利用できない。それだけ、学生アスリートの活動が重視されているということである。



写真4 男子バスケットボール練習場



写真5 バスケットボールセンター内 内装

3) ハリー・A・ギャンペルパビリオン

ハリー・A・ギャンペルパビリオン（Harry A. Gampel Pavilion）は、キャンパス内にあるドーム型の施設で、男女のバスケットボールと女子バレーボールのホームコートである。1990年にオープンした。総工費は2,800万ドルである。2017年、アリーナの屋根の部分の修理のために1,000万ドルの予算が費やされた。約1万席の多目的ア

アリーナである。

アリーナ内の電光掲示板など至る所に、スポンサーのロゴがある。また、全米優勝を記念した旗や往年のスター選手を讃えた旗等が掲げられており、その功績を顕彰している。



写真6 ハリー・A・キャンベルパビリオン
アリーナ

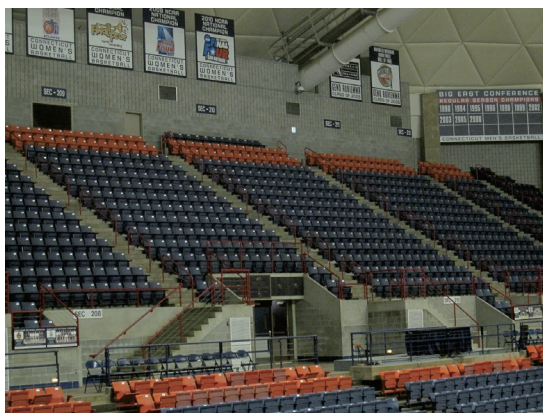


写真7 ハリー・A・キャンベルパビリオン 観客席



写真8 アリーナ内電光掲示板



写真9 男子バスケットボール部全米優勝を記念したフラッグ(旗)

4) ジョージ・J・シャーマンファミリー スポーツコンプレックス

ジョージ・J・シャーマンファミリースポーツコンプレックス (George J. Sherman Family-Sports Complex) は、1995年にオープンしたフィールドホッケー、女子ラクロス、男女の陸上競技の施設である。8レーンの全天候型の400メートルトラックの内側は人工芝のフィールドである。照明、スコアボード、プレスボックス、2000人収容のスタンドを備えている。総工費は370万ドルであり、施設の名前になっているシャーマン家からの65万ドルの寄付が、この施設の建設に大いに役立った。



写真10 ジョージ・J・シャーマンファミリー
スポーツコンプレックス

3. スポーツ施設と寄付

スポーツ施設の建設、維持には資金が必要である。コネチカット大学では、アメリカの他の大学と同じように、それらの一部または全部を寄付によっている。また、新施設の建設や維持のために命名権の販売も積極的に行っている。これらは、スポーツ施設内での広告掲示(スポンサーシップ)とともに、大学スポーツの運営資金として大きな役割を果たしている。

現在も、キャンパス内の多くのスポーツ施設の改修と新施設の建設が進められている。また、そのための寄付を募り、命名権の販売を行っている。学生アスリートのためだけでなく、一般学生、ファン、同窓生、地域社会にイベントや活動のため

の空間を提供するためである²⁸。

IV. 南ニューハンプシャー大学

1. 南ニューハンプシャー大学の概要

南ニューハンプシャー大学 (Southern New Hampshire University、略称: SNHU) は、1932年に設立された会計学校を前身とする非営利の私立大学である。航空工学・工学部、ビジネススクール、芸術文化学部、教育学部などからなる。キャンパスに通う学生は3万人以上であり、その68%がキャンパスに隣接した寮などで生活している。また、60か国以上から留学生を受け入れている。通信課程(オンラインプログラム)も充実しており、9万人以上の学生が学んでいる。

一般的な年間の学費は30,456ドルである。その他、単位認定にかかる費用、寮費、食費、保険などの費用がかかる。在籍する学生の94%が奨学金などの何らかの経済的援助を受けている。資格を満たせば、最大20,000ドルの給付型奨学金も準備されている²⁹。

2. 大学スポーツとキャンパスレクリエーション

南ニューハンプシャー大学は、NCAAのディビジョンIIのNE10カンファレンス(Northeast-10 Conference)に所属しているがフットボールチームは持っていない(フットボールチームの維持には予算がかかりすぎるため)。2017年現在、新たなスポーツ施設を建設中である。野球(男)、アイスホッケー(男)、バスケットボール(男女)、クロスカントリー(男女) ゴルフ(男女) ラクロス(男女) サッカー(男女) テニス(男女) フィールドホッケー(女) ソフトボール(女) 陸上競技(女)、バレーボール(女)、チアリーディング(女)が大学のチームとして活動している³⁰。奨学金等を得ている学生アスリートは約350人である。海外からの留学生も学生アスリートとして6-7人受け入れ、サッカー、バスケットボールなどで活動している。現在、Esportsにも力を入れている。

テニスコート、2017年に改修された野球(ソフトボール)場、照明付きのサッカー・ラクロスフィールド、クロスカントリーコース、Athletics &

Recreation Complex などのスポーツ施設を所有している。南ニューハンプシャー大学では、図書館など一部の建物に寄付者の名前が冠されているが、スポーツ施設にはまだ寄付者の名前は冠されていない。

また、学生アスリートの卒業率が高い大学だと NCAA から認定されたことがある。学生アスリートの 2016-2017 の学期の平均学科 GPA は 3.29 で、連続 10 セメスターで GPA3.0 を超えている。70% の学生アスリートの GPA が 3.0 を超えており、19 チーム中 18 チームの GPA が 3.0 以上、11 チームの GPA が 3.3 以上である。チーム GPA の最高は、女子はバレーボールチームの 3.670、男子はテニスチームの 3.448 であった。これらの数字を公表し、優秀な学業成績のチーム、個人を表彰している。スポーツと学業の両立を強く意識していることがわかる³¹。

多くのアメリカの大学同様、南ニューハンプシャー大学でスポーツをするにはふたつの方法がある。ひとつは学生アスリートとして活動する場合である。そのためにはコーチの承認を得て、NCAA のディビジョン II の基準を満たさなくてはならない。

大学 1 年次では、高校での 16 コースが修得済みであること、高校での主要科目の GPA が 2.0 以上³²、アマチュアリズムについての講習の修了、定められた SAT または ACT のスコアを獲得することである。卒業することとスポーツで優秀な成績を修めることが求められる。

もうひとつは、一般学生としてキャンパスレクリエーションやイントラミューラルなどの学生による活動に参加することである。この場合のスポーツ参加の目的は楽しむことである。しかし、南ニューハンプシャー大学では、一般学生が楽しむためにキャンパスレクリエーションやイントラミューラルなどのスポーツ活動に参加する場合でも（例えばレクリエーションセンターの利用でも）、GPA2.0 以上が求められる。

イントラミューラルは、大学のレクリエーションセンターなどが主催し、スポーツを楽しみたい学生を集めて開催されるスポーツプログラムである。南ニューハンプシャー大学では、

Department of Athletics and Recreation の主催で、学内で参加学生を募集し、「勝利を目指す」リーグと「純粋に楽しむ」リーグの二つに分けて開催している。秋セメスターでは、バレーボール、フラッグフットボール、ソフトボール、チームハンドボール、春セメスターでは、バスケットボール、サッカー、ドッジボールの試合が行われている。

また、週末や一日で行われるイントラミューラルのイベントには、ウィッフルボール、3v3 バスケットボール、ホームランダービー、キックチャレンジ、フリスビー、ビーチバレー、バトルシップなどがある。学生は、友人とチームを組んだり、個人で参加している学生同士でチームを組んだりしながら、このようなイベントに参加するのである。

Athletics & Recreation Complex は、学生スポーツとレクリエーションのための施設で、フィットネスセンター、ジム、25 メートルプール（6 レーン）、ラケットボールコート、ダンスルームなどがある。アリーナには 2000 人が収容可能である。学生アスリートのためだけでなく、一般学生、教職員も利用する。トレーニングルームの利用だけでなく、ブートキャンプ、ズンバ、ピラティス、ヨガ、ストレッチ、アクアティクスなどのクラスも開講している。これらのクラスのインストラクターはすべて大学が雇用しており、学生等がこのようなキャンパスレクリエーションに参加する場合の費用はすべて無料である³³。



写真 11 Athletics & Recreation Complex 内
アリーナ

V. おわりに

NCAA とアメリカの大学のスポーツの状況について概観した。

NCAA は、大学横断的かつ競技横断的統括組織であり、「Academics (学業との両立)」「Well-being (安全と健康)」「Fairness (公正)」の三つの理念に則り、大学スポーツを主導している。また、NCAA によって、アメリカの大学はスポーツでお金を儲けているかのような印象があるが、実際には多くの大学では、大学スポーツによって収益を上げることはできていない。

また、NCAA は学生アスリートに一定基準の学業成績が求めており、NCAA に加盟する大学はその基準を遵守している。

コネチカット大学でも南ニューハンプシャー大学でも寄付金が大学スポーツ施設の建設に大きくかかわっていた。

そして、学生アスリートの活躍が愛校心を育成し、学問の向上にも貢献すると考えていることが明らかになった。

このように大学スポーツに関わるお金の流れや考え方などが日本と大きく異なることがわかる。

日本でも「日本版 NCAA」といわれた大学スポーツ協会 (Japan Association for University Athletics and Sport、略称: UNIVAS) の設立が、平成 31 年 2 月を目途に進んでいる。大学スポーツの歴史、あり方は、日米間では大きく違う。よって NCAA の良い点は取り入れるべきだが、日本の大学スポーツの現状に照らし合わせた運営が必要であろう。

本研究は 2017 年度東海大学学部等研究教育補助金計画 (テーマ「アメリカにおける地域と連携した大学スポーツのマネジメント手法に関する研究」研究代表者: 松浪 稔) の助成を受けたものです。

注及び参考文献

¹ 主に 2017 年 9 月 12 日 13 日に実施したフィールドワークを中心としている。

9 月 12 日に、南ニューハンプシャー大学でのフィールドワークと、Department of Athletics and Recreation の Director、Anthony Fallacaro 氏へのインタビューを行った。

そして 9 月 13 日に、コネチカット大学でフィールドワークを行った。

なお、本文中の写真はすべてフィールドワーク時に著者が撮影したものである。

² 以下、「フットボール」の表記はすべて「アメリカンフットボール」を指す。

³ 宮田由紀夫 (2016) 『暴走するアメリカ大学スポーツの経済学』、東信堂、2016 年、p.9

⁴ 宮田由紀夫 (2017) 「アメリカの大学スポーツ NCAA から何を学ぶか」『現代スポーツ評論』36、創文企画、p.40

⁵ NCAA Web Site <http://www.ncaa.org/> (2019 年 2 月 4 日確認)

⁶ フェンシング (1941 年) スキー (1954 年) 以外の女子の競技大会の運営開始は 1980 年代以降である。つまり、当初 NCAA は女子のスポーツ参加に反対していたが、タイトル IX 以降、広く女子に門戸を開いたことがうかがえる。

⁷ FBS は、観客収容力の高いアメリカンフットボールのホームゲームの平均入場者数に 1 万 5000 人以上という基準を設けるなど、営利的側面が強い。

⁸ FCS はアメリカンフットボールに関し収容力などの基準を設けてはいない。ディビジョン I でも、アメリカンフットボールが強豪である (FBS)、アメリカンフットボールがそれほど強くない (FCS)、アメリカンフットボールをやっていない、という三つのサブディビジョンに分けられる。

⁹ 「NCAA 所属大学における Athletic Department の財務」、笹川スポーツ財団 Web Site、<http://www.ssf.or.jp/Default.aspx?TabId=1402> (2018 年 9 月 15 日確認)

引用文中の注記は引用者による。

¹⁰ フットボールやアイスホッケーなどで一部例外がある。

¹¹ NCAA Web Site <http://www.ncaa.org/about/resources/media-center/ncaa-101/our-three-divisions> (2019 年 2 月 21 日確認)

¹² NCAA Web Site

<http://www.ncaa.org/student-athletes/future/test-scores>

ディビジョン毎に大学入学の際に求められる高校の成績 (GPA) は異なっている。

上記 URL (NCAA の Web Site) に GPA とテストスコア対応表 (スライドスケール) がある。

¹³ 東海大学の卒業単位 124 単位に合わせると、2 年終了時に約 50 単位、3 年終了時に約 75 単位、4 年終了時に約 100 単位となる。

¹⁴ 吉田良治 (2015) 『スポーツマネジメント論 アメリカの大学スポーツビジネスに学ぶ』、昭和堂、p.21

¹⁵ 宮田由紀夫 (2016) 『暴走するアメリカ大学スポーツの経済学』、pp.101-102

¹⁶ NCAA Web Site

<http://www.ncaa.org/student-athletes/play-division-i-sports> (2019 年 2 月 21 日確認) 引用者訳

¹⁷ 川井圭司 (2017) 「アメリカ大学スポーツのアマチュア規定はなぜ違法とされたのか —NCAA の動向と日本への示唆—」『現代スポーツ評論』36、創文企画、pp.85-93

また、NCAA のアマチュアリズムにおける問題点、学業と興業の間に生じるパラドクスについては、川井圭司 (2018) 「米国 NCAA の動向と日本への示唆 —「教育」と「興行」のパラドクス—」(早稲田大学スポーツナレッジ研究会編『スポーツ・エクセレンス —スポーツ分野における成功事例—』、創文企画、pp.89-103) も参照されたい。

¹⁸ 規模としては、春、夏の高校野球甲子園大会と同程度である。しかし甲子園大会の場合、春夏で合わせて 10 億円程度の売り上げだという。同規模のスポーツイベントであるが、日本とアメリカでは動く金額が桁違いである。

¹⁹ 「アメフトに関しては放送回数規制されていることに不満を持った有力大学を代表してオクラホマ大学が放映回数制限はカルテルであるから反トラスト法違反だとして NCAA を訴えた。最高裁は上記のような主張を聞いたうえで、消費者であるテレビ視聴者の利益を損なう分の方が大きいとして NCAA 敗訴とした (1984 年)。これ以降有力コンフェレンスが独自の契約を結ぶようになった。」() 内引用者。(宮田由紀夫 (2017) 「アメリカの大学スポーツ NCAA から何を学ぶか」 pp.40-41)

²⁰ 小林至 (2015) 『スポーツの経済学 2020 年に向けてのビジネス戦略を考える』、PHP 研究所、pp.106-113

²¹ ディビジョン I で、アメリカンフットボールの

強豪校のうちの上位 25%程度が黒字を計上しているという。ちなみにフットボールの強豪が所属するサブディビジョンの FBS には約 130 の大学が所属している。前述の通り、NCAA に加盟している大学はディビジョン I に 351 大学、ディビジョン II に 308 大学、ディビジョン III に 443 大学である。

²² 宮田由紀夫 (2016) 『暴走するアメリカ大学スポーツの経済学』、pp.136-149

宮田由紀夫 (2017) 「アメリカの大学スポーツ NCAA から何を学ぶか」、P.45-47

²³ 「フルーティ効果」といわれる。スポーツで優れた戦績を残すことで入学希望者が増えることである。1984 年のボストンカレッジのスター Q B、ダグ・フルーティの活躍が翌年以降のボストンカレッジへの入学志願者を増やしたことからきている。

²⁴ UConn Web Site, ENDOWMENT REPORT 2017

<https://www.foundation.uconn.edu/wp-content/uploads/sites/132/2017/10/pdf-uconnfoundation-endowment-report-2017.pdf>

1 ドル 115 円で計算すると 2017 年度の予算は 2645 億円、寄付は 485 億 1850 万円に相当する。

²⁵ UConn Web Site

<https://admissions.uconn.edu/cost-aid/tuition> (2018 年 10 月 21 日確認)

アメリカの大学の学費は、さまざまな奨学金や学費の割引制度、教育ローンも準備されているとはいえ、日本に比べ高額である。

²⁶ マーチマッドネスと呼ばれる NCAA 全米バスケットボール選手権大会で、男子は 1999 年、2004 年、2011 年、2014 年の四回、女子は 1995 年、2000 年、2002 年、2003 年、2004 年、2009 年、2010 年、2013 年、2014 年、2015 年、2016 年の 11 回優勝している。

²⁷ UConn Web Site

<https://uconn.edu/athletics/> (2018 年 10 月 21 日確認) 引用者抄訳。

²⁸ UConn Huskies Website

<https://uconnhuskies.com/sports/2018/6/12/sports-husky-fund-spec-rel-husky-fund-capital-projects-13.aspx?id=10> (2018 年 10 月 22 日確認)

なお、スポーツ施設に対する寄付などの情報だけでなく、チケット販売、試合結果、チーム状況などあらゆるコネチカット大学のスポーツの情報は、UConn Huskies の Website に集約されている。

²⁹ SNHU Website

<https://www.snhu.edu/tuition-and-financial-aid/tuition-and-fees>

(2018年10月23日確認)

³⁰ 南ニューハンプシャー大学のスポーツチームの情報は、Penmen Website

<http://www.snhupenmen.com/landing/index> に詳しい。なお、Penmen は、南ニューハンプシャー大学のスポーツチームのニックネームである。

³¹ “Southern New Hampshire University 2016-2017 YEAR-IN-REVIEW”

なお、前述の通り、アメリカの大学の GPA は日本の大学より比較的高く、平均で 3.0 程度といわれている。

³² 学生アスリートとしてディビジョン I の大学に入学するには高校での GPA2.3 以上が必要であるが、前述の通り GPA2.0 以上であればレッドシャツ（練習生）として練習に参加できる（大学一年次は試合には出場できない）。

学生アスリートとしてディビジョン II の大学に入学するためには、高校での GPA2.2 以上が必要であるが、GPA2.0 であれば、練習に参加できる（ただし大学一年次は試合には出場できない）。

NCAA Web Site

<http://www.ncaa.org/student-athletes/future/tes-t-scores> (2019年2月4日確認)

³³ 南ニューハンプシャー大学のスポーツについては主に、2017年9月12日に実施した南ニューハンプシャー大学でのフィールドワークと、Department of Athletics and Recreation の Director、Anthony Fallacaro 氏へのインタビューによる。